

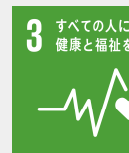
滋賀の公共交通未来アイデア会議 第3回ワークショップ報告

土木交通部交通戦略課

1



**Mother Lake
Goals**
変えよう、あなたと私から



ワークショップ（WS）の位置づけ

令和6年7～9月

滋賀地域交通 第1回ワークショップ

県民にとって望ましい交通を達成するための課題整理

令和6年11～12月

滋賀地域交通 第2回ワークショップ

令和7年2月

県民フォーラム（全地域で情報共有）

「滋賀地域交通計画（骨子案）」作成

県が目指す暮らしのシナリオの共有

令和7年7～8月

滋賀地域交通 第3回 ワークショップ

令和7年12月頃

県民フォーラム（全地域で議論）

令和8年3月

「滋賀地域交通計画」策定

令和8年度～

滋賀地域交通計画を受けて、交通施策実施

地域交通活性化協議会

税制審議会

ワークショップの概要

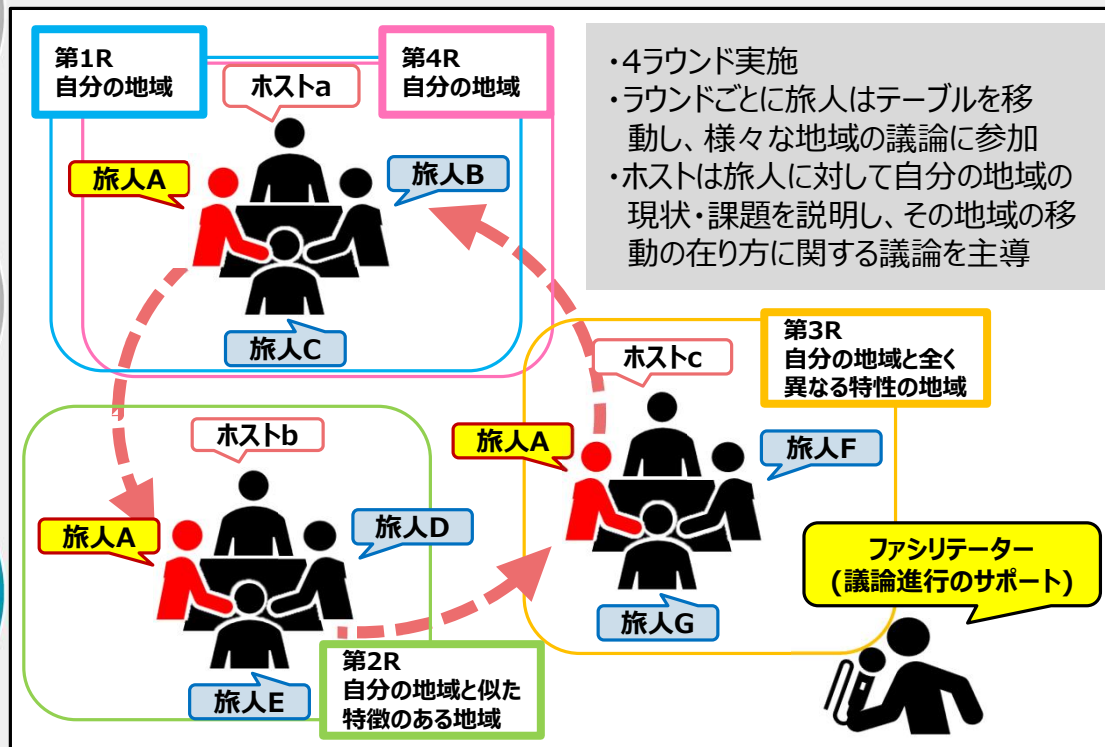
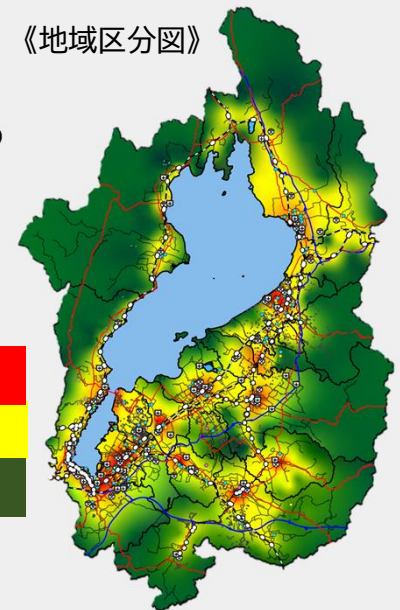
《実施目的》

昨年度までの取組を踏まえ、「地域の暮らしと移動のあり方」について、個人目線から県域目線での共有へと高められるよう、県民対話を行う

《実施方法》

居住地の所在地および地域区分Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ毎にグループ分け
ワールドカフェ方式のワークショップにより、同じ地域区分や異なる地域区分の人との対話を繰り返すことで議論を深める
※大津市と彦根市の2会場で実施(1会場9グループ)

《地域区分図》



第3回ワークショップの進行

項目	内容	時間
全体説明 (情報提供)	・本日の進行 ・これまでの取組成果の説明 ・地域交通将来デザイン案の説明	20分
WS 説明	・ワールドカフェの基本説明 ・本日のテーマ発表 ・ワールドカフェの進行方法とホストの役割説明	5分
ワールドカフェ	ワールドカフェの練習・アイスブレイク	5分
	第1ラウンド グループ内で対話	20分
	第2ラウンド 他地域同一区分のテーブルへ移動し対話	20分
	休憩	10分
	第3ラウンド 他地域他区分のテーブルへ移動し対話	20分
	第4ラウンド 元のグループで対話（気づきの共有）	20分
発表	各グループの発表・共有	50分
総括	ワークショップ全体のふりかえり	5分

4

テーマ1. 地域区分毎に「目指す暮らし」と「抱える課題」、
滋賀県全域の地域交通「将来デザイン案」について、どう思うのか。
テーマ2. そのために、県・市町、交通事業者、市民は何が必要で、何をすべきか

第3回ワークショップ参加者概要

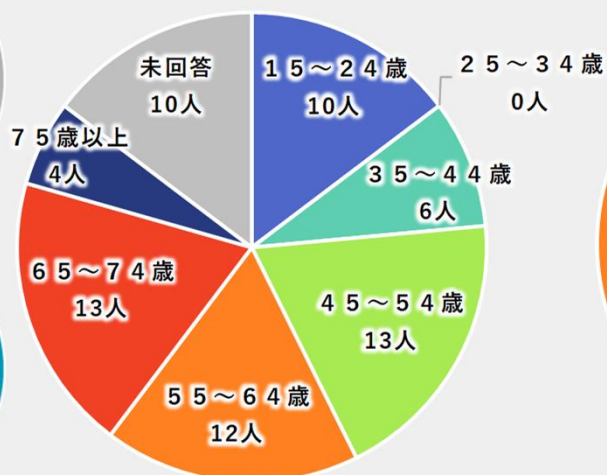
○ 参加者数 : 68人

地域	開催日時	開催場所	参加者数
湖西 大津・湖南 甲賀	令和7年7月27日(日) 14:00~17:00	【大津会場】 なぎさのテラス Hashing dinner	34人
東近江 湖東 湖北	令和7年8月2日(土) 14:10~17:00	【彦根会場】 アルプラザ彦根 Cozy town cafe	34人

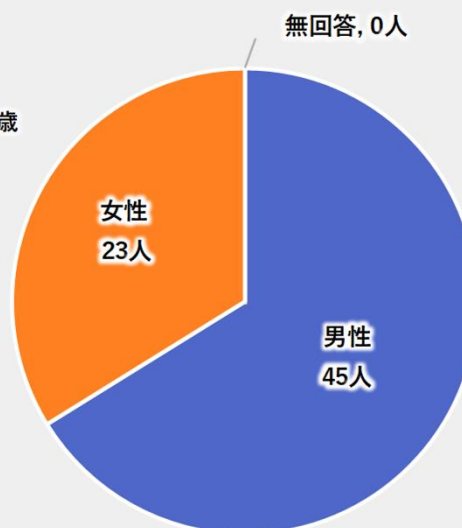


○ ワークショップ参加県民のプロフィール

(1) 年齢



(2) 性別



(3) 職業・立場等

- ・ 高齢者(有職、無職)
- ・ 免許返納者
- ・ 子育て世代
- ・ 現役世代(有職)
- ・ 学生(高校生、大学生)
- ・ 自治会役員、まちづくり協議会委員
- ・ コミュニティセンター
- ・ 社会福祉協議会
- ・ 福祉タクシー利用者
- ・ ケアマネージャー
- ・ 障害者の地域活動支援団体
- ・ 観光協会 他

第3回ワークショップの実施状況(大津会場)

▼ 主要な話題

1) 望ましい暮らし

- ▶ ゴールは「暮らしやすさ」である
 - ・移動しにくいのも暮らしにくい
 - ・コミュニティが衰退しすぎても暮らしにくい
 - ・税金が高すぎても暮らしにくい

2) 望ましい暮らしの実現に向けた取組

- ▶ 自宅で受診可能なオンライン診療サービスの充実など、「しなくてはならない移動」を減らせる仕組みづくりや、自動運転の導入等、**新たなシステムや手段**の導入が求められている

3) 公共交通の運用改善の必要性

- ▶ 移動の実態に応じた**運用の改善**と、公共交通に関する**正しい知識の周知**が必要
 - ・デマンド交通は市境を跨いだ運行がなく、必要な移動が行えない
 - ・バスは無料でも経路や頻度等、利便性の面から利用機会がない
 - ・ライドシェアはなんとなく安心できない 等

4) 負担のあり方について

- ▶ 地域を問わず参加者の意見が二分された
 - ・現状の負担が既に大きいため、これ以上の**負担増は許容できない**
 - ・既存の公的支出の用途を見直したうえで、適正に税が使われるのであれば**負担増を許容できる**



第3回ワークショップの実施状況(彦根会場)

▼主要な話題

1) 望ましい暮らし

- ▶ 今後、さらに人口が減少することを踏まえ、短期的・長期的な視点から、自動運転など新たな技術の進展等の状況変化を見込みつつ、**どのような暮らし方、移動のあり方を目指して取り組みを進めるかのプロセスが重要**

2) 望ましい暮らしの実現に向けた取組

- ▶ 使い勝手の良いデマンド交通への関心が高い
- ▶ 他地域の工夫に学びつつ、デマンド交通やボランティア輸送、ライドシェアなど、**小規模な輸送を上手く活用**していく必要がある

3) 公共交通の運用改善の必要性

- ▶ 現行の運用では移動ニーズの実態にそぐわないケースが見られるため、「**使えるようにする**」観点から、市町間を跨ぐデマンド交通の運用等、効率化や工夫が必要
- ▶ 市町と県の役割を分けて考える必要がある

4) 負担のあり方について

- ▶ **負担のあり方について**、運賃負担や税による負担の他、ボランティアなど労力の提供による負担といった意見もあった
- ▶ 負担の増加については、意見が二分された
 - ・現状の負担が既に大きいため、これ以上の**負担増は許容できない**
 - ・**新たな税の活用**や**利用者負担の増額で賄うべき**



第3回ワークショップのまとめ

《ワークショップのまとめ》

- ・ 広域的な視点での議論により、**地域交通の持つ多様な価値や、課題**を共有
- ・ 地域を超えた議論の結果、「**地域交通の自分ゴト化**」が進み、**地域の活性化、暮らしやすい社会の構築に向けた建設的な提案**
- ・ 負担増に対しては「**賛成**」と「**反対**」の両方の意見と、**さらなる議論の必要性**が提示

ワークショップの最後に参加者が付箋に記載したコメント抜粋

地域交通 の価値	・ 公共交通は移動だけではなくWell-beingのための大切な要素。 ・ 公共交通の利用が増えることにより、市や町が豊かになる。人々の交流をもっと増やすことで、より良くなるのでは。 ・ 気候変動を考えて自家用車の利用を減らしていくべき。 ・ 観光客を如何にして滋賀まで誘導するかという、観光面からの視点も必要ではないか。
課題	・ どの地域であっても自家用車がないと生活できないのは同じ。自家用車に代わる交通手段が想像できない。 ・ 自動車が運転出来ない人（高齢者・学生）や免許返納時の移動手段を考える必要がある。 ・ 地域毎に暮らしや地域公共交通に対する考え方が異なる。あらゆる面において「着地点」が難しい。
学び (地域交通へ の意識)	・ 地域毎の困りごと、取組み、住民の助け合い等を知る事が出来た。自分たちの生活で何が必要かを考えさせられた。 ・ 地域、年齢、様々な中でも、「交通に関しての困り事を通じて良くしていこう」という思いは共通だった。 ・ 今まで車移動が当たり前と考えていた自分を反省。生活を見直そうと考え直せた。 ・ 税負担の大きさがよく分かっていなかったが、その重みや重要性、未来に目を向ける必要性を理解できた。 ・ 交通を便利にするためには一定の負担増がついて回る。行政に頼り過ぎは良くない。できることは自力で。
提案 (希望)	・ それぞれの地域の特性にあわせた必要なサービスを届けてほしい。 ・ 「くらしやすさ」には、交通のみに着目するのではなく、地域の活性化、一体感を向上させる施策が必要。 ・ 高齢化と利便性。新しい技術で住民の方が暮らしやすい世界にしていく。 ・ 市町の枠を越えたデマンドタクシー、ライドシェアの運行、移動を必要としない社会の構築。 ・ 情報を得やすい仕組みがあるとよい。
負担	・ 持続可能な地域交通の実現には費用負担が必要と感じた。 ・ 交通税には賛成だが、負担増で新たに実施できる施策には、どれだけの効果があるのか知りたい。 ・ 暮らしやすさの基準は人それぞれであり、これ以上負担を増やすべきではない。 ・ 人口減少や少子化が避けられない以上、税負担増による事業の拡充ではなく、不要な事業の削減から考えるべき。 ・ 新たな税を導入するにしろしないにしろ、WS参加者だけでは周知と議論が不十分。もっと話し合いが必要。

第3回ワークショップ結果を受けた今後の取組

ワークショップでの意見を受け、以下のように取り組みを進めていく

- 地域交通の充実の先にある「より良い暮らし」を目指す
- 地域交通の社会的価値の周知、学びの機会を設けるなど積極的な利用を促進する
- 移動実態やニーズ合った「選ばれる地域交通」になるように、多様な手段の組み合わせ等により、サービスレベルの充実を図る
- 将来の技術の進展や社会的要請を踏まえ、自動運転などの新たな手段の導入、DX・GXの推進に取り組む
- 負担のあり方の議論については、ワークショップやフォーラムだけでなく、アンケートや出前講座など、多様な手段を活用し、県民の声を聴く場を設け、引き続き対話を重ねていく